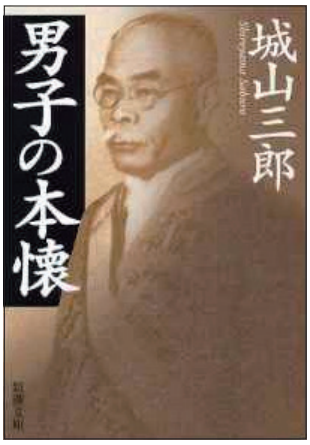
■私の役に立った本

宮田隆志のおすすめ
関西大学化学生命工学部 教授



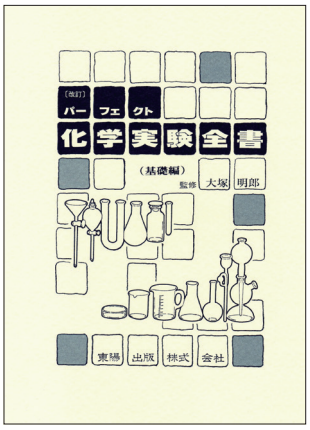
分　野：一般書
書籍名：男子の本懐
著者名：城山三郎
出版社：新潮社
出版年：1983年
価　格：767円（税込）

東京駅構内の新幹線への改札近くの柱にプレートが掲げられており、その足下に小さな目印がある。1930年11月14日に当時の内閣総理大臣 濱口雄幸が銃弾に倒れた場所である。今回紹介する本のタイトルは、その濱口の言葉の「すでに決死だから、途中、何事か起こって中道で斃れるようなことがあっても、もとより男子として本懐である」から引用された。ライオン宰相と呼ばれた濱口が行った金解禁などの政策は賛否があり、歴史が成否を示しているかもしれない。しかし、その結果いかんにかかわらず、当時の濱口が信念に基づいて事を成し遂げようとした気概が感じられ、気骨のある生き様に触れることができる作品である。学生時代にこの本に出会い、その後、筆者の城山三郎の「落日燃ゆ」や「粗にして野だが卑ではない」などを読み漁った。本誌では科学や技術に関する本のほうが適しているかもしれない。タイトルの「男子の」という表現は現代に少し合わないような気もする。しかし、若かった私には、強い信念をもって事を成し遂げようとした気骨のある生き様が強烈に印象に残った。このような気概や信念をもって人生を歩みたい、そして「本懐である」と言えるように仕事に向き合いたいと思わせてくれた作品である。

毎号「私の本棚」を読んでいると、私自身も役立った本が次々と紹介され、名著は多くの人に影響を与えてきたことがわかる。今回、正統派の「匠の時代」（内橋克人著）も候補として考えたが、書名を挙げるだけに留める。少し風変わりとなるが、私の人生観に強く影響した本書のほうを紹介させていただいた。

■私の役に立った本

古澤宏幸のおすすめ
山形大学学術院 准教授



分　野：化学
書籍名：パーフェクト化学実験全書（基礎編）
著者名：監修 大塚明郎
出版社：東陽出版（株）
出版年：1990年
価　格：3,865円（税別）

どの仕事の世界においても『伝える技術』は大切とよく言われます。とくに研究の現場では『正確に』が枕詞のようについてきます。

学部1、2年生の頃は講義室で講義を拝聴していればよかったものでした。ところが、卒研生として研究室に配属されると、“ディスカッション”と呼ばれる実験に関する議論の時間が日々やってきます。口下手な私は一生懸命に説明しているつもりでも、相手側が怪訝な顔つきをしていることはよくありました。そんなときホワイトボードの前に連れて行かれてよく言われました。「絵で描いてみろ」と。

言葉で上手く伝えられないもどかしさの中、大学生協書籍部で出会ったのが、本書です。化学実験で使用する器具の学生向け実験操作指南書なのですが、手に取ってパラパラと繰ると、試験管の正しい持ち方から、デシケーターのフタの正しい取り方、真空用マノメーターの気泡の抜き方に至るまで、実験操作がシンプルな線画のイラストとなって紙面を埋め尽くしておりました。そのイラストのなんという説明力でしょう。付属の文章は控えめ。それでも実際に実験室で操作しているかのような圧倒的な現場感は、今見ても学生実験のワクワク感とともに伝わってきます。

もう一つの『伝える技術』に気づきを与えていただいたことに感謝、そして、『伝える技術』のお手本として今でも活用させていただいています。さて本書の魅力が伝わったかどうか……。ぜひ、本書を手に取ってご覧いただきたいと思います。

©2017 The Society of Polymer Science, Japan